

# 一宮西高校 同窓会報

第19号

2003年7月1日発行

発行：一宮西高校同窓会事務局  
一宮市萩原町串作字河田1番地 〒491-0376  
TEL (0586) 68-1191 FAX (0586) 69-0196  
E-mail iwh-d@owari.ne.jp



## 創立40周年の節目に

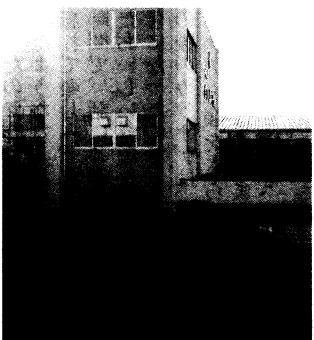
同窓会長 山内 進



同窓生の皆様方には、益々ご盛  
美のこととお喜び申し上げます。平素は何かと同窓会活動に対しま  
して会員の皆様方から物心両面に  
わたり、多大なご援助をいただき  
誠にありがとうございます。お陰  
様を持ちまして西高の同窓生も現  
在約1万4千名を超える大所帯に  
なり、各方面においてご活躍中で  
あります。私自身も様々な場所に  
おいて同窓生の方々とお会いする  
機会も増えてまいりました。初対  
面で何かとお互いごちない会話  
の中で、ふと出身校の話題になつ  
た時には、急に打ち解けた雰囲気  
となり「何回生? 同窓会の総会  
に出席した事あるの? まだ出席

した事が無かつたら今度の機会に  
是非企画してよ。クラス会でも良  
いからさあ。」等と急に太々しい態  
度になり会長(私第一回生なので  
先輩は当然の事ながら存在はしな  
い)の権威を嵩にかけ何かとご迷惑  
をお掛けした事が度々あります。  
た。

さてその同窓会の総会が、ご案  
内の通り8月10日(日)に真清田神  
社の参集殿にて開催される運びと  
なりました。例年総会と一緒に  
各々の学年の幹事さんのお骨折り  
によりまして、学年同窓会を企画す  
していたとき、今年度は第十八回生  
の学年同窓会を開催する予定にな  
っております。又学年同窓会に



した事が無かつたら今度の機会に  
是非企画してよ。クラス会でも良  
いからさあ。」等と急に太々しい態  
度になり会長(私第一回生なので  
先輩は当然の事ながら存在はしな  
い)の権威を嵩にかけ何かとご迷惑  
をお掛けした事が度々あります。  
た。

間同士の会合にもせいぜいご利用  
いただければ幸いかと存じます。  
今の世の中、人間同士の絆が非常  
に希薄になってきており、何とな  
く味気無い殺伐な世相の様に感ず  
るのは私だけでしょうか。年一回  
の総会ではありますがあ、何の遠慮  
も氣兼ねも無く付き合える同窓生  
の仲間同士多数が参加いただき、  
大いにこの会を盛り上げていただき  
たいと思います。又今年度は一  
宮西高創立40周年という大きな節  
目の年であります。昨今の厳しい  
社会状況の折りでもあり、特別  
な記念行事を執り行う予定はあり  
ませんが、もうすでにご案内のハ  
ガキが届いているかと存じます  
が、5年に一度の同窓会名簿を今  
年の秋頃に発刊する事になってお  
ります。何かと皆様にはご負担を  
お掛けするかと存じますが、よろ  
しくご協力の程をお願い申し上げ  
ます。又校内行事としてミュージ  
カル「ライオンキング」の観劇会を  
PTAとの共同後援として若干の  
補助をさせていただく予定になっ  
ております。同窓会名簿発刊と共に  
によろしくご理解の程をお願いい  
たします。最後になりましたが、  
同窓生の皆様方には今まで同様の  
ご支援ご協力をお願いすると共  
に、皆様方のご健勝をご活躍を心  
よりお祈り申し上げご挨拶とさせ  
ていただきます。

## 平成15年度 同窓会総会のお知らせ

(全日制 第18回生学年同窓会・  
放送部OB会同時開催)

- ◆ 日 時 8月10日(日)午後4時30分より
- ◆ 場 所 真清田神社参集殿
- ◆ 会 費 5,000円(学生は3,000円)

同封のハガキで出欠をあ知らせください。  
※来年度は、第19回生(昭和60年卒)の学年  
同窓会を計画しております。

### 一宮西放送部OBの皆様

せんので、連絡が漏れることも考  
えられます。不明な折には、一宮  
西高校同窓会のホームページ  
(<http://www.0ps.dti.ne.jp/iwh/>)  
に連絡文を掲載しますのでご覧下  
さい。積極的な働きかけをお待ち  
します。

この度、一宮西同窓会総会に併  
せて、同会場にて、放送部OB会  
(3~37回生)を開催します。

是非とも同期のOB間で連絡を  
取り合って頂き、8月10日のOB  
会にふるってご参加下さい。同年  
代の先輩、後輩の顔、顧問の先生  
の顔が揃い、楽しい時間が過ごせれ  
ばと思っております。

放送部OBの確定した名簿自身  
もありません。途中で部活をやめ  
られた方、最近の部活で兼部とし  
て在籍された方、放送部に短期間  
でも在籍されたOBの皆様、放送  
部の思い出を、懐かしい顔の中で  
語りあいたいものですね。ご参加  
お待ちしております。

何分確定した連絡手段を持ちま  
す。

幹事  
佐野直道(5回生)  
牧後藤継次(25回生)  
松岡真伸(22回生)  
林玲子(17回生)  
平野一也(10回生)  
鍵元久嗣(18回生)  
田宮真伸(22回生)  
堀田隆司(4回生)  
小沢豊比古(7回生)  
平野知子(9回生)



平成十四年度の同窓会総会は会場が変わり、一宮スポーツ文化センターで行われました。一宮駅から徒歩圏内の会場で、参加者から「今までより集まりやすい。」といふ声も聞かれました。

恒例となつた学年同窓会は、全員制第九回生と十七回生が同時開催され、総会の後、懇親会は暖かな雰囲気の中で、懐かしい話が続きました。

今回だけの限定で結成された、九回生の鷲津さんを中心とした「同窓生バンド」の熱演もあり、閉会の後も宴の余韻は続きました。さすが元西高生。第二次、三次会と盛り上がり続けたグループもありました。

今年もまた会場が変わり、真清田神社参集殿です。前回のスポーツ文同様、駅から徒歩圏内ですので、遠方に見える方も、またお近くの方もお誘い合わせになつてご参 加ください。

九回生学年同窓会

九回生 鈴木(平野)知子

「おとこしゃつたばっかやのことに集まるなんか？」から始まつた、九回生同窓会の幹事会。設定目標100人！達成できるかな～

もちろん、2次会の準備も怠りません。先導役まで決まりました。抜け目ない、というか、(こういうことには) よく間に合う幹事達。

学年でした。同窓生約六十名に加え、学年主任だった岩田隆先生をはじめ恩師の先生方にも多数ご出席いただき、盛大な会となりました。

会場では「久し振り」、「二十年ぶりだね」などの声があちらこちらのテーブルから聞こえ、思い出話に花が咲きました。また、当時の卒業アルバムを見ながらお互いの変貌ぶりを笑い合ったり、恩師の先生を囲んで記念撮影をしたりと、皆、西高生だったあの頃に戻ったかのようで、大変懐かしく楽しめたひとときを過ごすことができました。参加者からは、「来年もやろう」「次はもっと大勢で、『総同窓会』と同時ではなく十七回生だけの同窓会をやろう」などの意見も出て、名残は尽きませんでした。

そして、二次会は一宮駅前の居酒屋へと繰り出したのですが、ここでもまた時間の経つのも忘れて大いに盛り上がり、何年か後の再会を約束し解散したときには、日付が変わろうとしていました。

ご参加いただいた先生方、十七回生の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

学年同窓会を振り返って

十七回生 立澤秀樹



東京支部会報告

そして、第二次会は一宮駅前の居酒屋へと繰り出したのですが、ここでもまた時間の経つのも忘れて大いに盛り上がり、何年か後の再会を約束し解散したときには、日本が変わろうとしていました。ご参加いただいた先生方、十七回生の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

輩の顔を見ることが出来てうれしかったです。会では、初めてお会いする先輩方もいらっしゃいましたが、とても親しく話をすることが出来ました。先輩方の話から、それぞれの方が自分の目標に向かって努力しているということを感じて、私も負けないようにならうという気持ちが湧いてきました。このように今の自分自身を語ったりもしましたが、なにより懐かしい高校時代のことを思い出しながら話をすると、なにか気持ちが暖かくなるようでとてももうれしい瞬間だったのを覚えていました。

## ご転任の先生からの メッセージ



伊藤和明

私が西高に赴任したのは、新元号になった平成元年4月でした。その年は元号だけではなく、愛知県の高校入試制度もそれまでの学校群制度から新しい複合選抜制度へと大きく変わり、その新制度の下での第一期生が西高に入学してきた年でした。西高が、〇Bや〇Gからはもちろん、地域の方々から多くの期待に応える進学実績を出し続けるためにはどうしたらよいのか。それは西高に与えられた重い課題でした。

私は、赴任した最初の2年間は3年生の担当をしていて、直接「一期生」の前に立つことはありませんでした。しかし、授業の様子、職員室での生徒面談、そして連日夜遅くまで残って意見を出し合う進路検討会など、様々な場面で先輩の先生方の教育にかける情熱を見ていただきました。やがてその「一期生」が3年生になった時に、またも私は3年生を担当することとなり、その生徒諸君を立派に送り出そうという先生方の輪の中で無我夢中だったことを覚えてます。私はそこで西高の教育方針の力強さを学びました。強さといつても、決して冷淡で強引なものではなくむしろ温和で粘り強いものでした。

その後西高には、教室棟や職員室の改修工事がありました。教室棟の工事が行なわれた夏休み中の補習授業では、コンクリートの壁を打ち碎く大きな騒音に負けまい

とさらに大きな声を出して授業する教師に対し、一言も聞き漏らさないぞと必死にくらついてくる生徒。両者が流す大粒の汗は乾くことはありませんでした。また、職員室改修中には現在の大会議室（北館1階）が臨時の職員室となり、真冬の受験期には、手狭な場所にノートやプリントを山積みしつつ、丁寧に添削する教師に対し、かじかむ指に息を吹きかけながら廊下でじっと待つ生徒。7時を過ぎてもその列は途切れることはありませんでした。

このように西高では校舎内での大きな工事がありましたが、外見的にはそれほど以前と変わることはありませんでした。枠組み自体はほとんど同じでした。学校行事においてもそうでした。縮小化に向かっているのではないか、などと心無い意見もありましたが、西高祭や予饌会は以前と変わることなく立派に存続しています。学校生活において限られた時間を最大限有效地使うという意識を、教師と生徒が共有しているのです。つまり西高では、大枠をそのままにしつつ内的な成熟を求めたのです。そこには、生徒の自主性に任せせるといながらも日常からその様子をつぶさに観察したことなどいう時には主導権をとって有益なエネルギーを引き出す教師が数多くいました。そんな環境の下で育った生徒は、学校祭準備中でも朝早く登校し夕方は居残って学習する姿を見せてくれました。またセンター試験で9割の高得点が数々ありました。そんな環境の下で、大学合格を果たすのではなく、クラスの皆と一緒に最後まで勉強して合格したい』という言葉を口にするようになりました。さらに



西高 & INTERNET

- 1 西高OBのホームページ  
9回生の鶯津秀樹さん主宰。西高の学校行事、部活動などの話題や、OB同士が情報交換できる掲示板など盛りだくさんで楽しい内容です。ぜひ、ご覧ください。<http://www.ops.dti.ne.jp/~iwh/>
  - 2 西高マーリングテスト  
28回生の牧さん主宰。西高の話題を中心に、さまざまな情報を交換しています。申し込みは、牧さんまで。  
E-mail [maki@claris.office.ne.jp](mailto:maki@claris.office.ne.jp)
  - 3 同窓会事務局へのお便り・出欠のご返事もE-mailでどうぞ。  
E-mail [iwh-d@owari.ne.jp](mailto:iwh-d@owari.ne.jp)



●同窓会名簿のご案内

本年、11月に同窓会名簿を発行いたします。5月末にすでに住所確認のおハガキをお送りしておりますが、まだご返信していただけない方はお送りいただきまして、お願いいたします。

また、住所変更等でハガキが届いていないという方は左記までご連絡下さい。

(フリーダイヤル 0120-352-1080(株)廣済堂内)

また、名簿の編集は廣済堂に依頼しております。それ以外の業者は関係ありませんのでご注意ください。

◎同窓会報原稿の募集

## 学園だより

### 昨年度の同窓会活動報告

#### 一、同窓会総会の開催

平成十四年度は八月十一日(日)に一宮スポーツ文化センターにて開催。

旧・現職員、一般会員合わせて一七九名の参加をいただきました。

二、「同窓会報 第十八号」の発行

平成十四年七月一日に発送しました。

三、同窓会報郵送料金の実施

平成十四年七月一日に発送しました。

四、「東京支部会の開催」

平成十四年度は十一月二十三日(土)に新宿にて開催されました。学校側から伊藤和明先生・石田和久先生が参加されました。

#### 五、同窓会入会式および卒業記念品贈呈

平成十四年度は一月二十八日に実施されました。第三十七回生三十二名が同窓会に入会し、一般会員総数は一四、二四九名になりました。また、卒業生に卒業記念品として証書筒を贈呈しました。

## 部活動の成績

高校総体尾張支部		◎陸上部	◎バスケ部	◎ハンド部
男子	女子	男子	女子	男子
佐伯	水谷	佐伯	嘉之	剛志
水谷	佐伯	水谷	嘉之	剛志
四〇〇M	一〇〇M	四〇〇M	二〇〇M	四〇〇M
走幅跳	走幅跳	走幅跳	走幅跳	走幅跳
四〇〇MR	二〇〇M	四〇〇M	四〇〇M	四〇〇M
円盤投	ハンマー投	ハンマー投	ハンマー投	ハンマー投
二〇〇M	一六〇MR	一六〇MR	一六〇MR	一六〇MR
走幅跳	トラックの部	トラックの部	トラックの部	トラックの部
フィールドの部	アーチの部	アーチの部	アーチの部	アーチの部
日比	古川知代子	佐藤岳彦	佐藤剛志	佐藤嘉之
	森千秋	小川西垣	水谷嘉之	水谷嘉之
	安藤沙織	佐藤武田	佐伯剛志	佐伯剛志
	千恵	伊藤西垣	佐伯嘉之	佐伯嘉之
	倫子	浅井西垣	佐伯嘉之	佐伯嘉之
		重守	嘉之	嘉之
		大輔	剛志	剛志
		朋貴	嘉之	嘉之
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	嘉之	嘉之
		大輔	剛志	剛志
		朋貴	嘉之	嘉之
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		敬介	嘉之	嘉之
		夫	嘉之	嘉之
		岳彦	剛志	剛志
		大輔	嘉之	嘉之
		朋貴	剛志	剛志
		重守	嘉之	嘉之
		岳彦</td		